

1.3 美容関連市場（ASEAN）の動向調査

■ 目的

アジアの経済は他の地域に比べて成長していると言われており、美容全般についても例外ではない。本調査の目的は、日本を含めて、アジア諸国、とりわけ、近年における成長が著しい ASEAN 諸国の市場動向がどのようになっているか、また、今後どのように推移するのかを明らかにし、美容人材育成の方向性を検討するための基礎資料の作成にある。

■ 対象

昨年度事業において、日本・韓国・台湾の3国のデータは、濃淡あるものの、サービス業としての美容（美髪）市場の動向をとらえることができた。中国の美容（美髪）市場は手がかりとなるリソースが見当たらなかったものの、美容（美髪）サービスと相関が高いと推察される化粧品市場の動向は把握できた。

このことを受けて、中国と同様、化粧品市場が中心となるが、美容教育のより広範囲への普及を意識し、本年度は成長著しい ASEAN（Association of South - East Asian Nations、東南アジア諸国連合）諸国の市場動向調査を対象とすることにした。

■ 方法

リサーチ会社が調査・刊行している著作物、その出典となる刊行物、各種 Web サイトなどを参照することにした。

1.3.1 ASEAN 諸国の基礎的事項とその動向

ASEAN は、「Association of South - East Asian Nations」の省略形で、「東南アジア諸国連合」と訳するのが一般的である。平成 26 年現在、ASEAN を形成するのは、次の 10 カ国である。²

インドネシア、シンガポール、タイ、フィリピン、マレーシア、ブルネイ、ベトナム、ミャンマー、ラオス、カンボジア

今回の調査では、これら 10 カ国のうち、ASEAN 諸国の中では先進的であるとされ、かつ、市場規模の大きさがある程度わかっている、

インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシアの 5 カ国（以下、「ASEAN 5 カ国」）を調査の対象とした。ASEAN 5 カ国の基本情報は表 3 の通りである。

表 3 ASEAN 5 カ国の基本情報³

	インドネシア	タイ	フィリピン	ベトナム	マレーシア
正式名称	インドネシア共和国	タイ王国	フィリピン共和国	ベトナム社会主義共和国	マレーシア
面積	189 万平方キロ (日本の約 5 倍)	51.4 万平方キロ (日本の約 1.4 倍)	29.9 万平方キロ (日本の約 8 割)	32.9 万平方キロ	33 万平方キロ (日本の約 9 割)
人口	2.49 億人(2013)	6,593 万人(2010)	9,243 万人(2010)	9,170 万人(2010)	2,995 万人(2013)
首都	ジャカルタ (997 万人、2013)	バンコク	マニラ(首都圏人口約 1,186 万人)(2010)	ハノイ	クアラルンプール
民族	大半がマレー系(ジャワ、スンダ等約 300 種族)	大多数がタイ族。その他 華人、マレー族等	マレー族が主体。ほかに中国系、スペイン系及びこれらとの混血並びに少数民族がいる。	キン族(越人)約 86%、他に 53 の少数民族	マレー系(約 67%)、中国系(約 25%)、インド系(約 7%)(マレー系には中国系及びインド系を除く他民族を含む)
言語	インドネシア語	タイ語	国語はフィリピン語、公用語はフィリピン語及び英語。80 前後の言語がある。	ベトナム語	マレー語(国語)、中国語、タミール語、英語
宗教	イスラム教 88.1%、キリスト教 9.3%(プロテスタント 6.1%、カトリック 3.2%)、ヒンズー教 1.8%、仏教 0.6%、儒教 0.1%、その他 0.1%(2010、宗教省統計)	仏教 94%、イスラム教 5%	ASEAN 唯一のキリスト教国。国民の 83% がカトリック、その他のキリスト教が 10%。イスラム教は 5%(ミンダナオではイスラム教徒が人口の 2 割以上)。	仏教、カトリック、カオダイ教	イスラム教(連邦の宗教)(61%)、仏教(20%)、儒教・道教(1.0%)、ヒンズー教(6.0%)、キリスト教(9.0%)、その他

² ASEAN 地域内の総人口は 6 億人を超えており、5 億人の人口を抱える欧州連合(EU)よりも多い。2011 年の加盟国の合計の GDP は 2 兆 1,351 億米ドルであり、日本の GDP の約 36% の規模である。ASEAN を一国家として見た場合、世界 8 位の規模を持つことになる。

(Wikipedia より引用)

³ 外務省のホームページから作成

以下、ASEAN 5 カ国の人口動態、GDP をベースにした経済動向データを示す。

■ ASEAN 5 カ国の人口動態

ASEAN 5 カ国の人口の推移は表 4 に示した通りである。人口が最も多いのはインドネシアで、2012 年時点で 2 億 4 千万人を超えている。これは ASEAN 地域全体の 40% を占める数字であり、単独の国家の人口としては、中国(13 億 6 千万人)、インド(12 億 4 千万人)、米国(3 億 2 千万人)に次いで、世界第 4 位に位置づけられる(数字はいずれも IMF-World Economic Outlook Databases(2014 年 10 月版)に基づく)。

表 4 ASEAN 5 カ国の人口の推移等(百万人)⁴

国 \ 年	2007 年	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年	2012 年	2007 年を 100 としたときの指数	特殊合計出生率(2005-2010)
インドネシア	228	231	234	238	241	244	107.0	2.19
フィリピン	89	91	91	93	94	96	107.9	3.11
ベトナム	84	85	86	87	88	89	106.0	2.08
タイ	66	66	67	67	68	68	103.0	1.81
マレーシア	27	28	28	29	29	29	107.4	2.58

また、2007 年以降の推移で見ると、2007 年時点に比べて最も人口が増えたのはフィリピン、次いで、マレーシア、インドネシアの順になっている。フィリピンは出生率も 3 を超えており、人口増加率が高い状況は当面続くのではないかと推察される。一方で、タイの出生率は 2 を切っており、今後も含めて当面、横ばいで推移するものと思われる。

■ ASEAN 5 カ国のマクロ経済動向(過去)

・名目 GDP の推移

表 5 は 2001 年から 2012 年にかけての ASEAN 5 カ国の名目 GDP 推移である。

表 5 ASEAN 5 カ国 名目 GDP の推移(金額の単位: 億 US ドル)⁵

国 \ 年	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
インドネシア	1,482	1,640	1,812	2,066	2,497	3,005	3,556	4,454	5,046	5,802	6,681	7,418
タイ	1,644	1,746	1,895	2,079	2,272	2,513	2,731	2,908	2,896	3,237	3,376	3,640
マレーシア	1,090	1,185	1,295	1,466	1,681	1,846	2,058	2,381	2,205	2,459	2,725	2,900
フィリピン	899	970	1,051	1,183	1,312	1,449	1,593	1,784	1,855	2,081	2,250	2,442
ベトナム	241	268	307	358	420	487	572	743	829	990	1,268	1,467

⁴ 人口のデータは、IMF-World Economic Outlook Databases(2013 年 10 月版)より。合計特殊出生率は、「国際連合世界の人口推計 2008 年版の概要: World Population Prospects The 2008 Revision Highlights」より

⁵ 矢野経済研究所、「2014 年版 ASEAN 化粧品マーケティング総鑑」データより

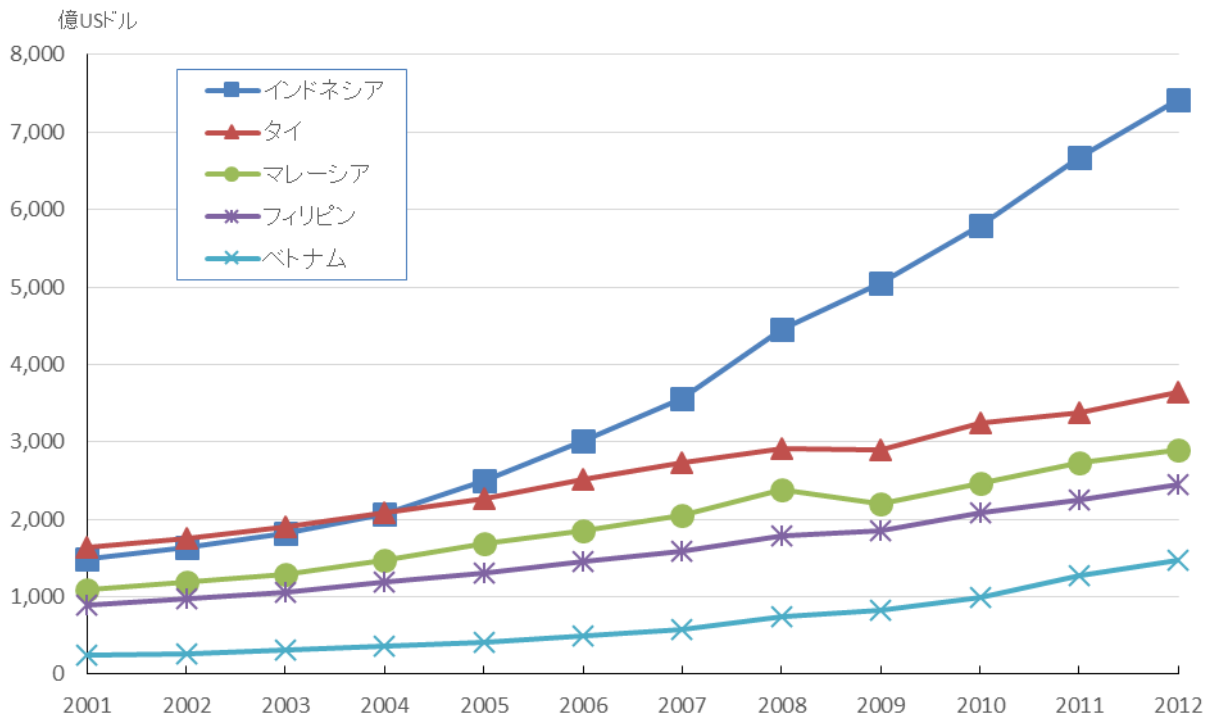


図 2 ASEAN 5 カ国 名目 GDP の推移グラフ

2001 年時点ではタイの値が最も大きいですが、2005 年に逆転してインドネシアが首位に立ち、以後大きな成長を遂げている。リーマンショックの影響により、2009 年に一部若干の下降は見られるが、基本的に右肩上がりの成長を遂げていることがわかる。

・実質 GDP の成長率

表 6 は、ASEAN 5 カ国の 2001 年から 2012 年にかけての、物価変動などの要素を除去した実質 GDP の成長率(年ごと)の推移である。

表 6 ASEAN 5 カ国 実質 GDP 成長率の推移⁶

国 \ 年	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
インドネシア	3.6%	4.5%	4.8%	5.0%	5.7%	5.5%	6.3%	6.0%	4.6%	6.2%	6.5%	6.2%
タイ	2.2%	5.3%	7.1%	6.3%	4.6%	5.1%	5.0%	2.5%	-2.3%	7.8%	0.1%	6.4%
マレーシア	0.5%	5.4%	5.8%	6.8%	5.0%	5.6%	6.3%	4.8%	-1.5%	7.2%	5.1%	5.6%
フィリピン	2.9%	3.6%	5.0%	6.7%	4.8%	5.2%	6.6%	4.2%	1.1%	7.6%	3.9%	6.6%
ベトナム	6.9%	7.1%	7.3%	7.8%	8.4%	8.2%	8.5%	6.3%	5.3%	6.8%	5.9%	5.0%

実質成長率の推移で見ても、2009 年にタイとマレーシアにマイナス成長が見られるが、他は一貫してプラス成長である。タイは大規模水害の影響で、2011 年はほぼゼロ成長であったが、他国も含めて、2012 年には 5 カ国とも約 5%以上の高い成長率を誇っている。

⁶ 矢野経済研究所、「2014 年版 ASEAN 化粧品マーケティング総鑑」データより

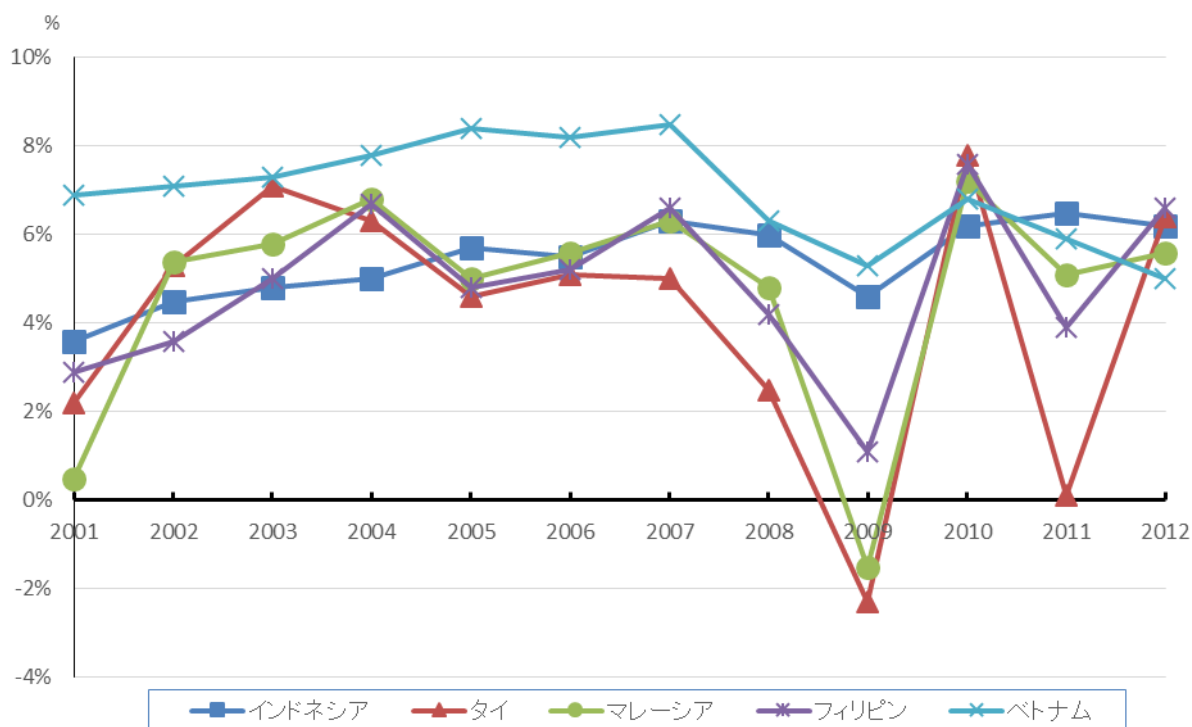


図 3 ASEAN 5 カ国 実質 GDP 成長率の推移グラフ

■ ASEAN 5 カ国のマクロ経済動向（予測）

・ 実質 GDP の成長予測

ASEAN 5 カ国の今後であるが、表 7 に示す通り、実質 GDP は今後も高い率で伸びると予想されている。

表 7 ASEAN 5 カ国 実質 GDP 成長率予測⁷

国 \ 年	2012	2013 予測	2014 予測	2015 予測	2016 予測	2017 予測	2018 予測
インドネシア	6.2%	8.3%	6.4%	6.4%	6.5%	6.5%	6.5%
タイ	6.4%	5.9%	4.2%	4.0%	4.5%	4.7%	4.7%
マレーシア	5.6%	5.1%	5.2%	5.2%	5.2%	5.2%	5.2%
フィリピン	6.6%	6.0%	5.5%	5.3%	5.4%	5.5%	5.5%
ベトナム	5.0%	5.2%	5.2%	5.3%	5.4%	5.5%	5.5%

・ 1 人当たり GDP

全体として大きな経済成長が見られる ASEAN 5 カ国であるが、1 人当たりの指標で見ても、今後も大きな成長が期待できる。表 8 に示した通り、2012 年と 2018 年を比較すると、ほぼ 40% 以上伸びると予測されている。

⁷ 矢野経済研究所、「2014 年版 ASEAN 化粧品マーケティング総鑑」データより

表 8 ASEAN 5 カ国 1 人当たりの名目 GDP の実績と予測(単位 : US ドル)⁸

国	A 2012(実績)	B 2018(予測)	指数(B/A)
マレーシア	9,844	13,741	139.6
タイ	5,653	8,343	147.6
インドネシア	3,034	5,583	184.0
フィリピン	2,549	3,788	148.6
ベトナム	1,623	3,122	192.4

特に、ベトナムでは、2018 年の予測値は 2012 年の実績値のほぼ 2 倍となっている。

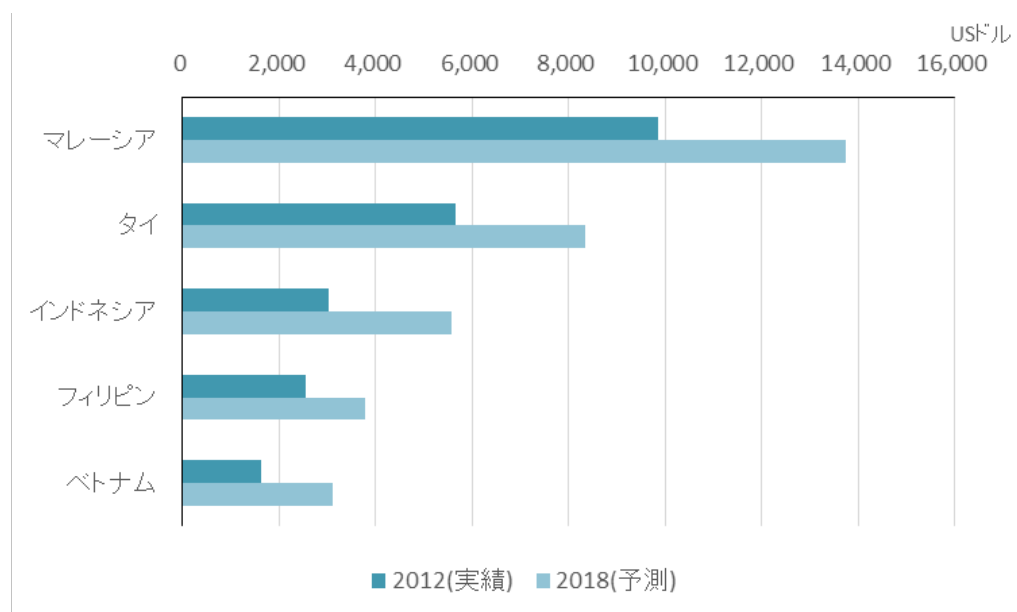


図 4 ASEAN 5 カ国 一人当たり名目 GDP の実績と予測

⁸矢野経済研究所、「2014 年版 ASEAN 化粧品マーケティング総鑑」データより

1.3.2 ASEAN 諸国の化粧品市場の動向

ASEAN 5 カ国の美容市場はどのようになっているか、美容・美髪といったサービスに関して信頼できる統計はないが、そのようなサービスとの相関が高いと思われる化粧品市場の動向を見てみよう。

■ ASEAN 5 カ国の化粧品市場の動向

表 9 より、ASEAN 5 カ国全体で見ると 2014 年以降は 1 兆円規模の市場になっていることがわかる。

表 9 ASEAN 5 カ国 化粧品市場規模推移(単位：十億円)⁹

国 \ 年	2009	2010	2011	2012	2013
インドネシア	142	162	190	225	269
タイ	243	263	280	302	324
マレーシア	88	93	100	104	109
フィリピン	153	166	175	182	187
ベトナム	25	30	38	44	53
合計	651	714	783	857	942

※金額の換算ルール

インドネシア	1 ルピア=0.01 円
タイ	1 バーツ=3.2 円
フィリピン	1 フィリピンペソ=2.3 円
ベトナム	10000 ドン=50 円
マレーシア	1 リンギット=32 円

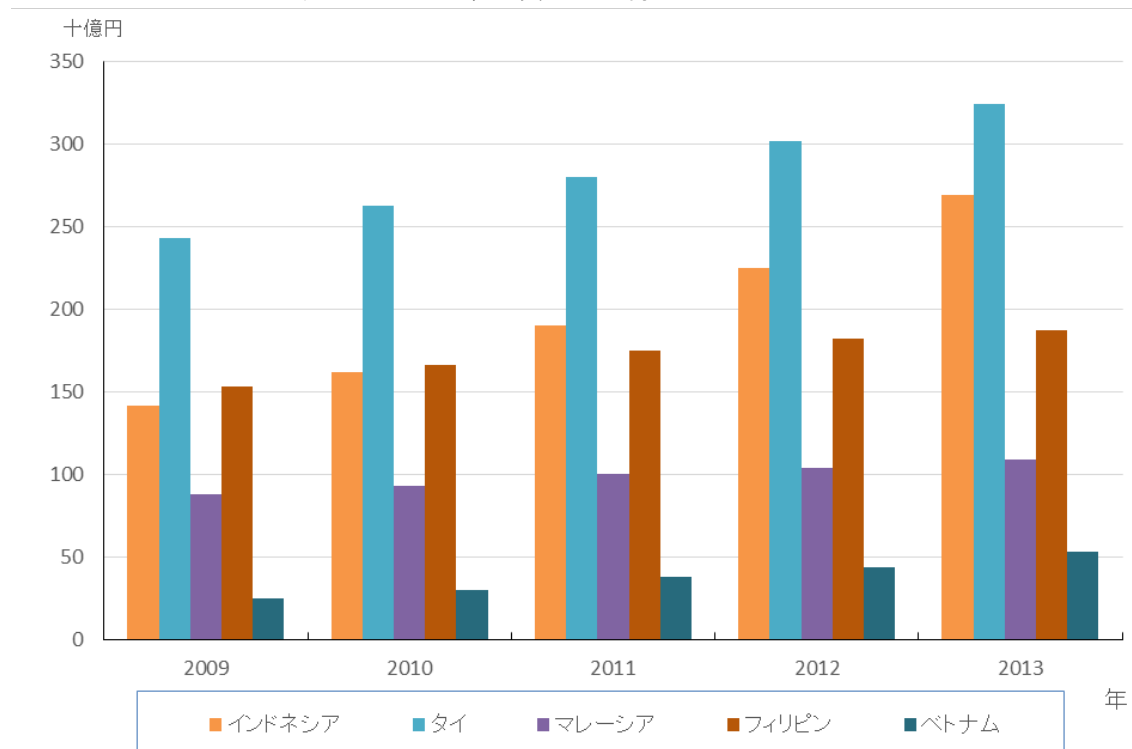


図 5 ASEAN 5 カ国 化粧品市場規模推移グラフ

⁹矢野経済研究所、「2014 年版 ASEAN 化粧品マーケティング総鑑」データより。

グラフにして国別に見ると、一貫してタイの市場が最も大きく、2位は2011年以降インドネシアになり、首位をうかがう勢いであることがわかる。

さらに、この期間における年ごとの伸び率をグラフにすると、図6のようになる。これを見ると、この期間において、インドネシアとベトナムは一貫して年率10%以上の成長を遂げていることがわかる。他の3カ国もインドネシアやベトナムほどではないが、年率5%前後の成長を遂げている。

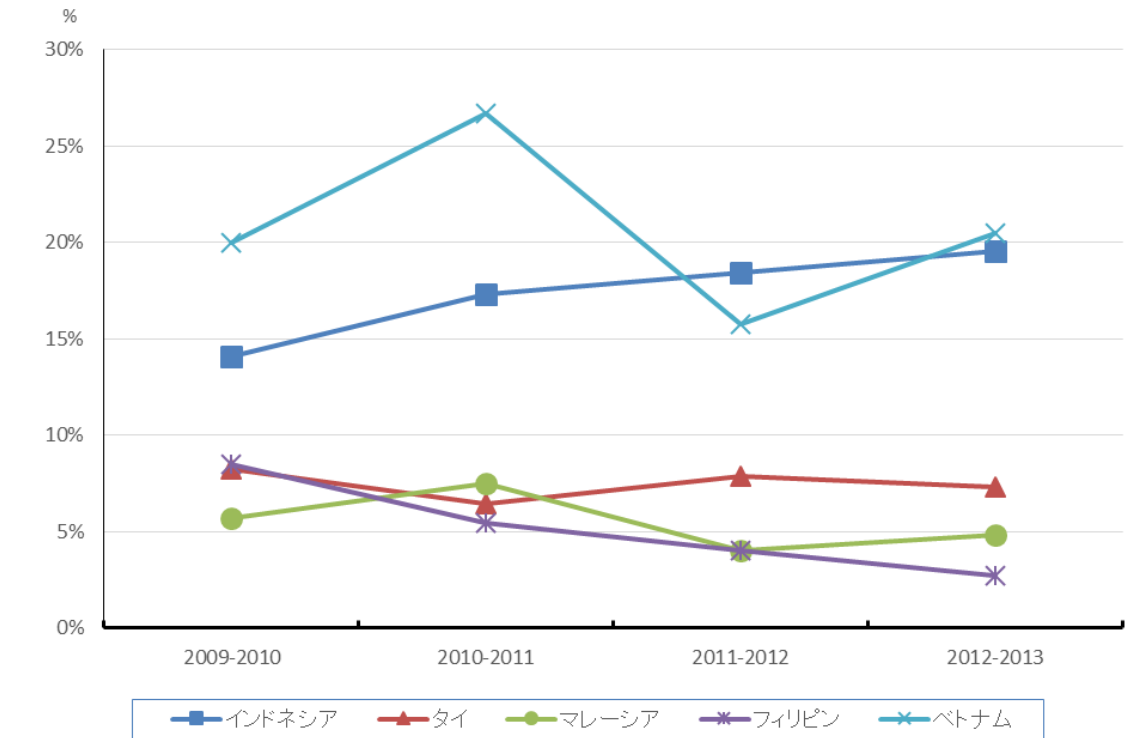


図6 ASEAN 5カ国 化粧品市場規模の伸び率推移グラフ

■ ASEAN 5カ国の化粧品市場の今後

以上の通り、ASEAN 5カ国の化粧品市場は大きく成長している。化粧品市場がGDPより大きな成長を遂げているのは、各国民の所得の上昇によって、可処分所得に余裕ができてくる現れである。したがって、今後の所得層がどのように変化していくかを見ることによって、市場がさらに拡大していく可能性を判断することができる。

図7は、日本貿易振興機構(JETRO)による調査結果から抜粋した資料¹⁰である。なお、この資料で、所得層は次のように定義されている。

- 低所得層 : 世帯可処分所得年間 5,000 ドル以下
- ローワーミドル : 世帯可処分所得年間 5,000 ドル超 15,000 ドル以下
- アッパーミドル : 世帯可処分所得年間 15,000 ドル超 35,000 ドル以下
- 富裕層 : 世帯可処分所得年間 35,000 ドル超

¹⁰ 日本貿易振興機構、「アジア売れ筋商品調査」(2010)の調査報告書全文 (<https://www.jetro.go.jp/world/asia/hot-selling/pdf/report.pdf>) の11ページから引用

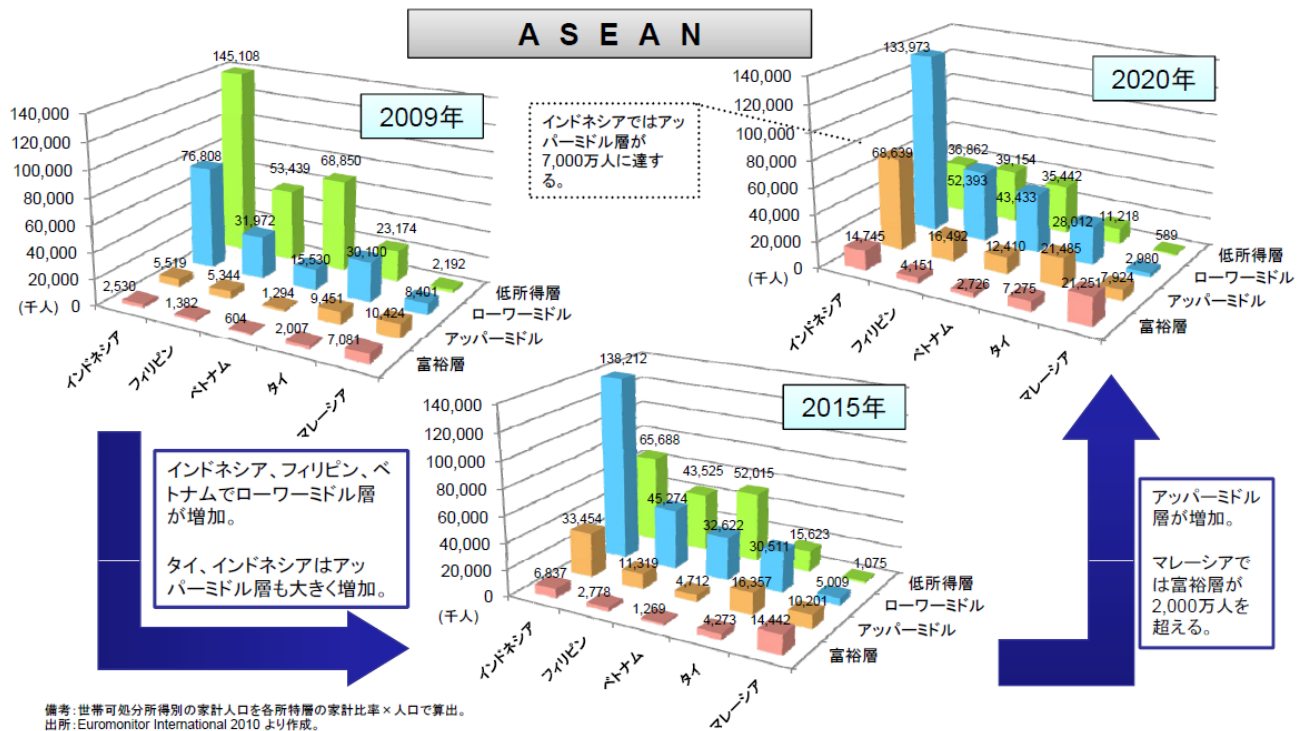


図 7 ASEAN 5 各国における所得層分布と予測

この予測にしたがえば、2020 年には 5 各国すべてで、「低所得層」より「中間層」のほうが多くなる。たとえば、インドネシアでは、2009 年時点で人口の半分以上が低所得層であったものが、2020 年には人口のほぼ半分が「ローワーミドル」と「アッパーミドル」と合わせれば、中間層が 2 億人以上となる。マレーシアでは、2020 年において富裕層が全体の 2/3、約 2,000 万人を超える。

これだけ「中間層」や「富裕層」が増えれば、化粧品をはじめとした「美容」関連市場の激的な拡大は約束されたようなものであるといえる。